

日本人大学生の英語聞き取り能力における特徴について

——ヒアリング・テストにおける一考察——

曾 根 素 子

On the Characteristics of Hearing Ability of Japanese Students

Motoko SONE

はじめに

日本人が、外国人とコミュニケーションをはかるために、英語は共通の言語と考えられている現状がある。この場合、自分の考えや気持ちを相手に伝え、また、相手の考えや気持ちを聞いて、コミュニケーションを十分に達成するためには、英語を、自分が母国語を話すのと同様に駆使することは望ましいことである。しかし、生まれた時から自然に身につけている日本語のように、簡単に駆使できるはずがない。それは、英語が日本語とは違った言語構造を持っていること、そして、日常、英語を聞いたり、話したりという環境のなかにいないという点が英語を操ることができるようになることを困難にしている。

日本語を母国語とする私たちにとって、この困難な点を克服し、英語を母国語に近いくらいに駆使するためには、どうしたらよいのだろうか。そこで、“英語を聞き取る”学習に限定して考えてみようと思う。日本人にとって、英語を聞き取る上での弱点とは何であろうか。またその学習において、大学での〈L. L. 演習〉はどのような役割を果たしており、効果的教授法はどのようなものであろうか。これらの点を考察してみたい。

I. ヒアリング・テストの目的と仮説

外国語（ここでは英語を指す）を学習するということにおいて、その言語を「聞き取る」ということは、大変困難なことである。日常、私たちが使っている母国語（日本語）であれば、聞こうとしていないことばや、小声で話されたことば、雑音の中で話されることばでさえ、自然に耳に入ってくるけれども、外国語においては、いくら注意深く聞こうとしても、そのように自然に耳に入ってこない。これは、日本語との構造の違いがあるなどの理由が考えられるが、では、どのような点が聞き取りにくいのか。また、英語を専攻し、日頃、英語を聞く機会のある外国語学習者と、外国語を専門に学習していない学生の間には、どのような聞き間違いの差が生じるのであろうか。

これらの問題を考察するにあたって、次のような二つの仮説をたててみた。

仮説 1. 文中ではっきり発音されない弱い音は、日本人には聞き取りにくい。

仮説 2. 英語の聞き取りには、馴れが大きく影響する。

「弱い音が聞き取りにくい」という問題は、言い換えれば、語頭よりも語尾のほうが聞き取

りにくいということである。日本語は高低の言語、つまり、一つ一つの音の高低によってことが発せられる言語であり、英語は、強弱の言語、つまり、音の強弱の組み合わせによってことが発せられる言語であることから、「強勢が示差的特徴を示す英語においては、強勢を受ける部分がはっきり発音されるのに対して、その他の部分は弱く発音されるために聴覚認知が困難になることが多い⁽¹⁾」く、「英語の単語を個々に発音した時の音声と connected speech の中で単語の発音は、多少異なることが多い⁽²⁾」、「この変化は、単独の音素が異音になるというのではなくて、全く異なった音素になったり、省略されたり、周囲の音素と一緒に変わって変化したりする⁽³⁾」と、これまで言われている。したがって、第二の仮説は、上記のような音声変化から、英語を専門に学習し、〈L. L. 演習〉の授業を受けている学生は、そうでない他の学科の学生と比較してみると、少ない回数の聞き返しで英語を聞き取ることができるのではないかとということである。個々に発音された単語の音声と文中の単語の音声には、多少差が生じることが多いので、この弱化、同化などという音声変化を、「知識として知るだけでなく、耳で実際に聞いて馴れておくことが必要である」といわれるように、英語の聞き取りには、英語に対する馴れが大きく影響しているらしい。この二つの仮説をもとに、次のようなヒアリング・テストをおこなった。

Ⅱ. 方 法

《被験者》

このヒアリング・テストで対象としたのは、文学部三学科の一年生で、英語英文学科46名、日本文学科Aクラス46名、Bクラス45名、児童教育学科43名である。このテストに先だって調査したところによれば、L. L. 教室を利用した授業や、AET（Assistant English Teacher）による授業の経験回数にはほとんど差はなく、この三月まで、高校において、ほぼ同じようなレベルの授業を受けていたと推測される。しかし、四月からは英語英文学科の学生は、〈L. L. 演習〉、〈オーラル・イングリッシュ〉を週各一回学び始め、外国語を学ぶということにおいて、他学科の学生と質的な違いがあると判断できる。なお、〈一般英語〉を学ぶという点については三学科共通である。

《実験方法》

このヒアリング・テストには、比較的簡単と思われる英語教材の中から、大学テキスト『Punch Line』（南雲堂刊行）を使用し、その中から四つの文章を選んだ。

教室は、テーブの音声聞き取り易いように、L. L. 教室でヘッド・ホーンを使用した。座席は自由であった。

問題文は全部で四問あり、付録につけたようである。一問目と二問目は穴埋め形式の問題で、印刷してあり、一問につきそれぞれ20箇所の空欄を作った。聞く回数によって生ずる聞き取り能力の差をみるために、ヒアリングの回数は一問目は一回、二問目は五回とした。三問目と四問目は、それぞれに二つの設問がある。一つは、問題文を聞いた後、続いて、その問題文の内容と関連した内容の10の文を聞いて、その一文、一文が内容と一致しているいかいなくかを問う問題とした。この場合、一致していれば、T (True)、一致していなければ、F (False) に丸をつける解答形式をとった。もう一つは、これらの問題文に関する質問を聞き、その質問に答える形式にした。三問目、四問目とも、問題文はもちろん、それに関連する内容の文・質問も全て印刷していないので、学生は問題文をみることはできない。そして、前の二問と同様に、

その聞く回数によって生ずる差をみるために、ヒアリングの回数を三問目は一回、四問目は五回とした。

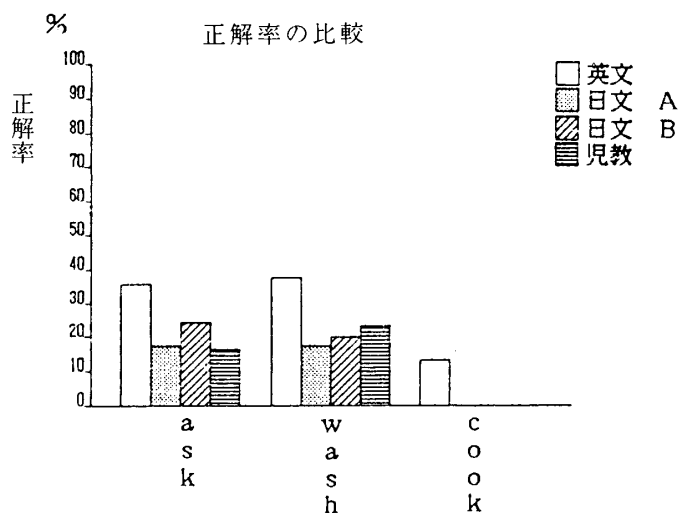
Ⅲ. 結果と考察

《語尾の聞き取り》

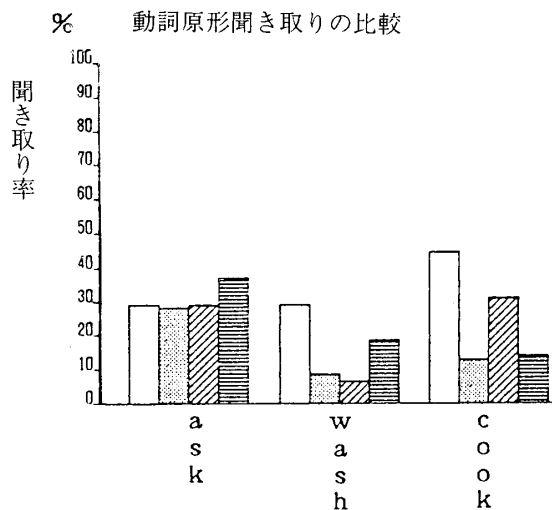
〈1〉動詞過去形の語尾

まず初めに、一般動詞過去形の規則変化をしている三つの動詞, asked, washed, cooked を取り上げることにする. この三つの動詞について, 語尾の変化を含めて聞き取ることのできた学生数は, asked については, 英語英文学科16名, 日本文学科Aクラス8名, Bクラス11名, 児童教育学科7名であった. 以下それぞれの学科を, 英文, 日文A, 日文B, 児教とする. washed については, 英文17名, 日文A 8名, 日文B 9名, 児教10名であり, cooked については, 英文の6名のみであった. 学科ごとに人数にばらつきがあるので, その正解率を見てみると, 英文35.56%, 37.78%, 13.33%, 日文A 17.39%, 17.39%, 0%, 日文B 24.44%, 20%, 0%, 児教16.28%, 23.26%, 0%である (図1).

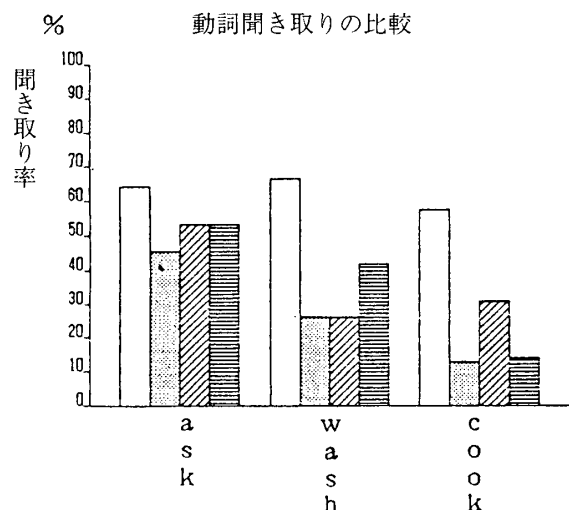
また, 語尾までは正確に聞き取ることができなかったけれども, その動詞の原形だけを聞き取ることができた学生数は, ask については, 英文13名, 日文A 13名, 日文B 13名, 児教16名, wash については, 13名, 4名, 3名, 8名, cook については, 20名, 6名, 14名, 6名であり, その聞き取り率は, 図2に示す通りである. 両者を合わせ, この三つの動詞自体の聞き取り率は図3に示す通りである.



[図1]



[図2]



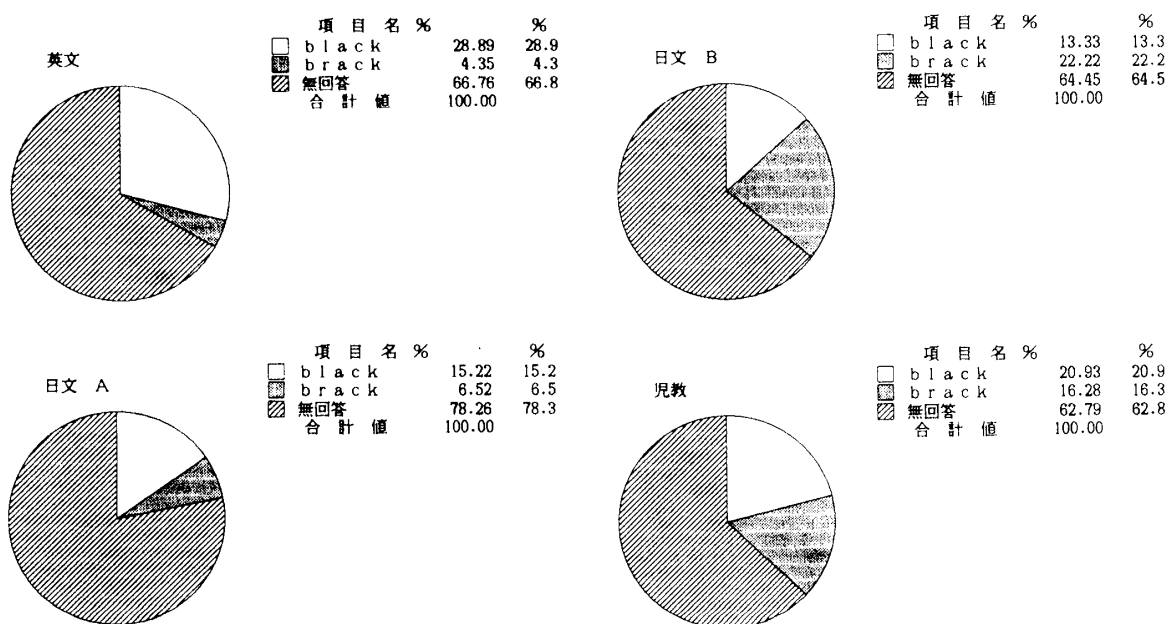
[図3]

これら三つの動詞の語尾に共通しているのは、その語尾の発音が /t/ であるということである。can と can't の識別が困難であることと同様に、/t/ の音で終わるこれら三つの動詞の語尾も弱形となるために、聞き取ることが困難であるらしい。これは、竹蓋氏の説の通り、音声的に、自然な会話の中での英語においては、弱く発音されることがほとんどであるので、このように聞き取りが困難になるのであろう。

この語尾の発音のほかに、もう一つ、これらの音を聞き取ることができない理由として考えられるのは、日本人英語学習者の欠点の一つであると考えられている「予測力の不足」と「情報源の無活用」である。日本語を母国語としている私たちは、無意識のうちに、自分の経験や習慣、会話の内容や知識を働かせて、自然に、相手の言わんとすることを予測し、認知する。例えば、「昨日」ということばが最初に発せられれば、この文章の時制が過去形であることは無意識のうちに仮定され、この会話はお互いの間で進行していくことになる。ヒアリングが上達すると、「①次にどのような語句や内容がくるかを予想できたり、②未知の語句の意味を推測し、はっきり聞こえなかった部分を復元できるようになる⁽⁵⁾」と言われるように、母国語においては、自然に身につけている、文の流れを予測しながらの音声言語の聞き取りが、ヒアリング能力がそこまで上達していない英語学習においては、一語一語を追っていく、単音の聞き取りにすぎなくなっているらしい。

〈2〉brought の聞き取り

bring の過去形 brought であるが、この動詞を聞き取ることができたのは、日文 A クラスの学生ただ一人であった。その他の学生は、全く聞き取ることができなかった者と、顕著な同一の聞き間違いをしている者である。この聞き間違いというのは、「black」あるいは「brack」または、それに似た綴りの間違いである。英文では「black」と答えた学生が13名、「brack」またはそれに似た綴りを答えた学生が2名、同様に、日文 A では7名、3名、日文 B では6名、10名、児教では9名、7名であった。この誤答率は図4に示す通りである。



[図4]

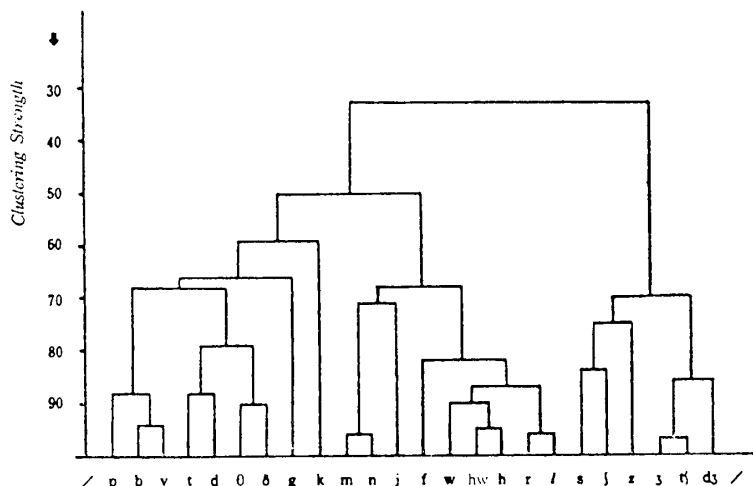
この場合の聞き間違いも、〈1〉と同様に語尾の聞き取りができていないことによるものである。この二種類の動詞の聞き間違いから、第一の仮説を証明することができた。この「brought」の結果からは、それ以外にもう一つ、日本人英語学習者の特徴が顕著である。それは干渉「(Negative transfer)」である。これは、

「例えば、英語のある音素の音響的感覚を学ぼうと思っても、それが自国語の音素で、似た音響的特質をもつ音と同じ音のように聞こえてしまうのである⁽⁶⁾」と言われることである。このテストの場合、英語の /r/ と /l/ は日本語にはない子音であるけれども、実際には両者は区別されるべきである。しかし、日本語の /r/ がこの中間であると言われているように、似ているためにどちらも聞き取ることが可能となり、

どちらも日本語の「ル」として聞き取られているために、「br」、「bl」の二通りの聞き取りとなったと考えられる。図5に示した通り、「一般的にみても、日本人は米国人よりも非常に多くの子音ペアを比較的近い（似ている）と聞いており、混同の可能性が高い⁽⁷⁾」ことが、このテストからも明らかである。もう一つ考えられることは、「black」あるいは「brack」と「brought」ではあまりにも違い過ぎるということから、この「brought」の入るべき空欄の後ろの単語「coffee」と深く関わっているのではないかということである。現在、非常に多くの外来語が日本語の中で大きな位置をしめ込んでいるが、その中の一つで、既に日本語化してしまったように思われる「ブラック・コーヒー」という単語があるが、日常よく耳にするこの単語からの“過剰類推”によって、その綴りには多少の違いはあるけれども、「ブラック・コーヒー」と聞き取ってしまったと考えられる。/r/ と /l/ の“母国語干渉”に加えて語尾の弱形のために聞き取りにくかった単語を、自分が知っている英単語の組み合わせに聞きとってしまったらしい。これは一種の「心理的な母国語干渉」といえるように思う。音声面でみられる母国語の干渉だけでなく、はっきりと聞き取ることができなかった場合、日本語の知識の中から、最も適していると思う単語を、それと思いこんでしまう傾向にあるということである。

〈3〉aboveの聞き間違い

aboveについても、〈1〉、〈2〉とは品詞の上での違いはあるけれども、同様の結果がみられる。この副詞を聞き取ることができた学生は、英文の2名のみであった。この単語について、共通した顕著な聞き間違いは、「about」である。上記の「brought」と比較してみると、その聞き間違えた学生の絶対数は少ないけれども、その聞き間違えた学生のほとんどが同じ間違いをしている。その数は、英文9名、日文A 5名、日文B 8名、児教10名であった。



【図 5-2】 子音間距離知覚実験のデータをクラスター分析し、日本語話者の聴覚にある米語子音の全体的関係を樹枝状図に示したもの。結節点がベースラインに近いものほど、相関の高いクラスター（似ていると聞かれたペア）であることを示す。（竹藪，1981）

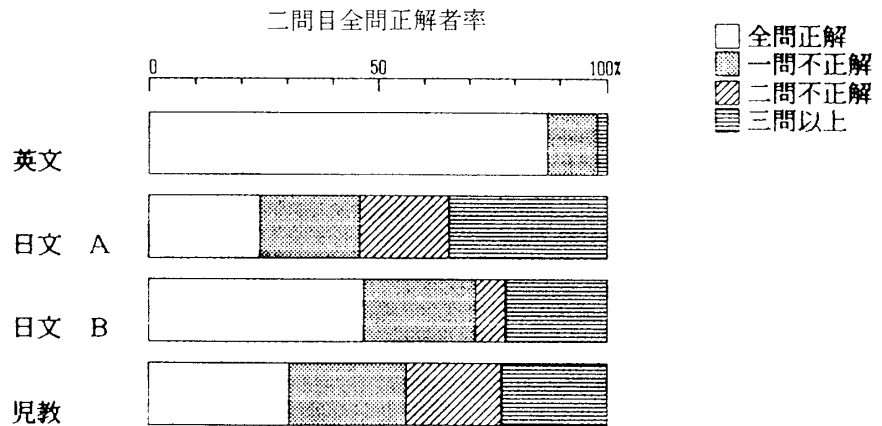
【図 5】

この聞き間違いは、前述の〈2〉と同様、語尾の弱形によって、/v/の音は聞き取れなかったと考えられる。そして、その/a/の前の発音によって聞き取ることができるかと考えると、その音は/a/であって、「about」の/ʌ/と識別しにくい音であることがわかる。このことから、ここでも“母国語干渉”の現象がみられ、/a/、/ʌ/ともに「ア」となり、実際の音が聞き取りにくくなっているといえる。

以上のことから、三例にすぎないけれども、仮説1が正しいと言えるのではないだろうか。

《ヒアリングの回数による差異》

これまでの、一問目においては、第一の仮説に基づいて、顕著に表れた聞き間違いの結果について述べてきた。第二の仮説に基づいて見た場合はどうであろうか。この結果について述べることにする。ヒアリングの回数を一問目は一回、二問



[図6]

目は五回と変えたという点についても、注目すべき結果が得られた。まず第一に、五回のヒアリングを行った二問目は、当然ではあるが、どの科の学生もよく聞き取ることができていた。そのなかで、20ヶ所全て聞き取ることのできた学生数に大きな差がでた。その正解者率は図6に示す通りである。第二の特徴は、一問目と二問目の正解数の差である。これはもちろん、差が出ることは当然のことであるが、三学科四クラスの平均正解数は、一回しか聞かなかった一問目が5.61、五回聞いた二問目が18.65であった。

第三の特徴は、一問目・二問目において、それぞれの学科間の平均正解数の差の違いである。一問目の各学科の平均正解数は、英文7.96、日文A 4.41、日文B 5.07、児教4.98で、英文とその他の学科とを比較してみると、その差は日文Aの場合は3.65、日文Bは2.89、児教は2.98であった。一方、二問目の正解数は、英文19.83、日文A 17.83、日文Bは18.47、児教は18.47であった。ここでも英文との比較をすれば、日文Aの場合は2.00、日文Bは1.36、児教は日文Bと同数の1.36であった。このようにヒアリングの回数によって、その正解数に大きな差がみられる。つまり、ヒアリングの回数が少ないと、学科間の差が大きくなるという結果が得られた。

これらの結果によって明らかなように、同材料・同形式の異なった問題によって、ヒアリングの回数に変化をもたせたこのテストにおいて、一週間に一度ではあるけれども、〈L. L. 演習〉の授業を受けている英文の学生と、その他の学科の学生との間に大変大きな違いがあらわれた。即ち、仮説2は、正しいと検証されたことになる。

ヒアリングの回数をかさねる場合は、時間的には長時間ではなくても、必ず週一回は英語を耳にする機会のある英語学習者と、そうでない学習者においては際立った差は見受けられない。その理由の一つと考えられるのは、ヒアリングの回数を重ねることによって、学習者の耳が英語に馴れてくるということである。また、もう一つには、ヒアリングの回数を重ねることで、

一回目で聞き落とした箇所を聞き取ることに集中できる、更には、自信のない箇所については聞き直しをし、再確認することが可能であるということである。こう考えれば、一問目の一回だけのヒアリングでは、突然流れてくるテープの英語を聞き落としてしまえば、もうその箇所は埋められないことになり、何とか聞き取った箇所も、それが正しいのかどうかを確認することも不可能となり、正解率が悪くなると考えられる。そして、一回だけのヒアリングにおいての英文とその他の学科との差は、英語を聞き取ることに馴れる機会を与える、普段の〈L. L. 演習〉の成果であり、〈L. L. 演習〉は聞き取りの面で重要な教授法といえる。

お わ り に

このように、今回の実験は、英語学習の初歩的論点の確認をまず行った。本学文学部の一年生も、一般的日本人英語学習者と同じ弱点をもっていることが確認された。ところで、今回のこのヒアリング・テストでは、ヒアリングの回数に変化をもたせた結果、英文と他学科の学生との聞き取りの差は、そのヒアリングの回数をかさねることで少なくなったが、この場合、何回聞いた時点で、その差は少なくなるのかという問題がなお残っている。また、英語に対する馴れが、聞き取りを克服する鍵となるならば、他学科の学生に毎日一時間英語を聞かせれば、聞き取りに関しては、英文の学生よりも能力が向上するのであろうか。この場合、教材は、〈聴覚・視覚をとともう映画やテレビ〉、〈聴覚のみを利用する既成のヒアリング教材〉、または〈外国人歌手の歌〉などが考えられるが、どれがもっとも効果的なのか。これも、残された課題である。

そして、ヒアリングの回数と時間の関係はどうであろうか。毎日30分のヒアリングと、一日おき一時間のヒアリングとでは、どちらがより効果的な方法なのか。今回のヒアリング・テストの三問目と四問目では、問題文を含めてすべてをテープの音声だけにして、学生は目にすることができなかったからだと思われるが、ほとんど問題に答えられなかった。このことから、テープから流れる音（英語）を、活字にして目で見て聞く場合、音（英語）だけを聞く場合、そして、あらかじめ内容を聞いておいて活字は目にしないで音（英語）を聞く場合の三つの場合が考えられるが、それらの聞き取りの差はどうなるのか。つまり、より正確に、より多くを聞き取るために、視覚に訴える活字は有効的であるのかということである。

一方、日常生活での会話を想定すると、私たちはほとんどの場合、車の音や、他人の話し声など何らかの音のなかで会話をしているが、この状況を設定して、これらの音が含まれている教材を使うことによって、この会話を聞き取る上では余分な音の中から、必要な情報を聞き取る、または聞き分ける能力の向上は可能にならないだろうか。

その他、心理的影響によって、英語学習のために弊害はあるのだろうか。例えば、極度の緊張感のために英語（授業）が耳に入ってこなかったり、あるいは、その逆で、リラックスしすぎて緊張感がなくなり、ヒアリングに集中できないなどということである。そして、心理的影響があるとすれば、それを取り除くためには、英語学習においては、どのような環境が最も適しているのか。今回の実験では探ることができなかった課題が数多く残っている。これらの課題を探るたためにもっとも適したテストをつくり、一つづつ考察していきたい。

註

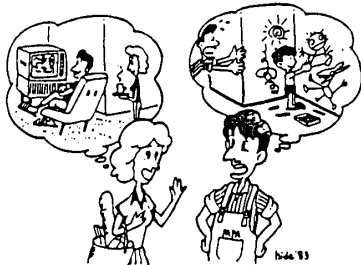
- (1) 池浦 貞彦, 1979, p. 17
- (2) 渡辺 和幸, 1979, p. 6
- (3) 同上, 同頁
- (4) 同上, 同頁
- (5) 垣田 直巳 (監修), 吉田 一衛 (編集), 1984, p.95
- (6) 竹蓋 幸生, 1984, p. 85
- (7) 同上, p. 78

参 考 文 献

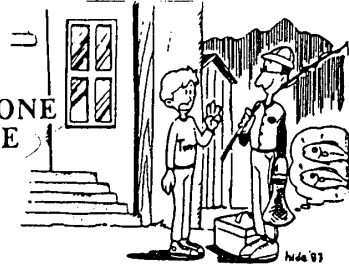
- 池浦 貞彦, 「ディクテーションの方法」, 『英語教育』, 27巻, 12号, 大修館書店, 1979, pp. 16-18
- 垣田 直巳 (監修), 小篠 敏明 (編集), 『英語の誤答分析』, 大修館書店, 1983
- 垣田 直巳 (監修), 吉田 一衛 (編集), 『英語のリスニング』, 大修館書店, 1984
- 河野 守夫, 「聞き取り能力をめぐる理論と実際」, 『英語教育』, 27巻, 12号, 大修館書店 1979, pp. 9-11
- 高本 捨三郎編著, 『英語の発音とヒアリング』, 南雲堂, 1978
- 佐藤 秀志, 「ヒアリング・テストの検討」, 『英語教育』, 27巻, 12号, 大修館書店, 1979, pp. 19-21
- ジョン・デニス, 島岡 丘, 『統合的英語教授法』, 大修館書店, 1986
- 竹蓋 幸生, 『日本人英語の科学—その現状と明日への展望』, 研究社出版, 1982
- 竹蓋 幸生, 『ヒアリングの行動科学—実践的指導と評価への道標』, 研究社出版 1984
- 渡辺 和幸, 「「聞き取れない」とはどういうことか」, 『英語教育』, 27巻, 12号 大修館書店, 1979, pp. 6-8

付 録

1. TRUE LOVE



2. ONE AND ONE ARE THREE



Mr. Flatberg was a bookkeeper. He kept _____ of everything. One Sunday afternoon his wife _____ to take care of their three small but active children _____ she went shopping. He said, "Yes."

When she came home he _____ a note that read, "I told them to _____ fifteen times; told them not to write on walls, 13 times; _____ faces, 8 times fixed toys, 14 _____ (average life of toy — 10 minutes); warned them not to go into the _____, 33 times; they ran into street, 24 times; number of times I will _____ again, 0."

Then Mrs. Flatberg _____ out a note of her own. It said, "Number of meals _____ for husband and children in one week, 21; number of times picked up socks left on _____ by husband, 11 times; number of times _____ coffee or snack to him on request, 22 times; number of times I will repeat the _____ free services, because I love him, as _____ needed."

Tom failed Math and English. He went _____ his teacher one Sunday to see if there was _____ he could do. But his teacher was just leaving to _____ fishing. Tom said to him, "Please Mr. Wilkes, give me _____ chance. I want to graduate."

Mr. Wilkes answered, "Okay Tom, I'll give you one _____ chance. When I _____ tonight, I'll give you a simple test. If you _____, you graduate."

"Thank you very much," said Tom. "I'll do my _____."

When Mr. Wilkes came home, Tom was waiting _____ him. Mr. Wilkes said, "Well Tom, are you ready _____ question?"

"Yes, I _____ so," said Tom.

"Well, if you can _____ how many fish I have in this bag, I'll _____ you both of them."

"Three," said Tom.

Mr. Wilkes couldn't believe it, so he said, "How _____ you miss such an _____ question? Both of anything means two."

"Easy," said Tom, "I don't _____ fish."

Pete Mills and Jack Helf were hunting deer in the West. They were sitting around their campfire one evening and talking. Pete said, "This sure is a beautiful country, isn't it, Jack?"

"Yes," replied Jack, "you can hear the birds sing. You can see so many stars. It's so quiet and peaceful out here."

"It's fantastic," said Pete, "I'm so glad Columbus discovered America. Otherwise we wouldn't be here."

Then Pete looked over at their Indian guide Red Wolf and asked, "What do you think of this great country?"

"I like it very much," he replied, "I was born here. My father was born here, and my grandfather was born here and so on."

"Then your relatives were here before Columbus," said Pete, "what did you call this country before we came?"

Red Wolf looked at Pete. Then he looked at Jack. At last he said, "As you can see, Columbus didn't really discover America. We did. We called this land 'Ours'."

Jack had a pain in his side, so he went to see a doctor. The doctor told him he needed an operation. Jack was afraid, so he asked the doctor to give him some medicine instead. The doctor said, "I'm sorry, Jack, but pills won't work. You have to have an operation."

Jack's friends and relatives tried to make Jack feel better. They said, "You've nothing to worry about, Jack. It's a simple operation." Jack soon felt better.

The day of operation came, and Jack had completely stopped worrying. Before they took him into the operating room, his wife wished him luck and said, "See you in a short while, Jack."

She was waiting only about fifteen minutes when Jack suddenly came running out of the operating room. "What happened, Jack? What's wrong?" she asked.

"Well," said Jack, "everything was fine until someone said, 'Don't worry, it's a simple operation.'"

"That's nothing to worry about," said his wife.

"That's what you think," said Jack, "it was the nurse talking to the doctor."

3. TRUE OR FALSE

1. They were talking in the evening. T F
2. It was a clear night. T F
3. Pete saw a wolf. T F
4. The Indian didn't like the country. T F
5. The Indian was born there, but not his father. T F
6. The Indians came first, then Columbus. T F
7. Pete and Jack discovered America. T F
8. Jack's relatives were there before Columbus. T F
9. Columbus didn't really discover America first. T F
10. The Indians called it their land. T F

QUESTIONS AND ANSWERS

1. *What were they hunting?*

2. *What did Pete say about America?*

3. *What was it like where they were?*

4. *Who did Pete say discovered America?*

5. *What was Red Wolf?*

6. *What does Red Wolf think of the country?*

7. *Where was Red Wolf's grandfather born?*

8. *Who was there first, Columbus or the Indians?*

9. *Who really discovered America?*

10. *Whose land is it, then?*

4. TRUE OR FALSE

- | | | |
|--|----------|----------|
| 1. <u>Jack went to see a doctor.</u> | <u>T</u> | <u>F</u> |
| 2. <u>The doctor gave him medicine.</u> | <u>T</u> | <u>F</u> |
| 3. <u>Jack had to have an operation.</u> | <u>T</u> | <u>F</u> |
| 4. <u>Jack's relatives were worried.</u> | <u>T</u> | <u>F</u> |
| 5. <u>He wished his wife luck.</u> | <u>T</u> | <u>F</u> |
| 6. <u>Jack was in the operating room only 15 minutes.</u> | <u>T</u> | <u>F</u> |
| 7. <u>Jack ran out of the operating room.</u> | <u>T</u> | <u>F</u> |
| 8. <u>Jack asked his wife what happened.</u> | <u>T</u> | <u>F</u> |
| 9. <u>Jack had nothing to worry about.</u> | <u>T</u> | <u>F</u> |
| 10. <u>The nurse was telling the doctor it was simple.</u> | <u>T</u> | <u>F</u> |

QUESTIONS AND ANSWERS

1. *Where was Jack's pain ?*

2. *What was Jack afraid of ?*

3. *What did Jack ask the doctor to give him ?*

4. *Why didn't the doctor give him medicine ?*

5. *What did his relatives try to do ?*

6. *How was Jack on the day of the operation ?*

7. *Who wished him luck before he went in ?*

8. *What happened 15 minutes after he went in ?*

9. *Everything was fine until what happened ?*

10. *Who was the nurse talking to ?*

* イタリックの部分は、すべて、印刷されていない。